

2025 年度 第 1 回鋼材規格三者委員会 議事録

1. 日 時： 2025 年 7 月 23 日（水）14:30～17:15

2. 場 所： ハイブリッド会議（対面：鉄鋼会館 811・813 室＋Web：Teams）

3. 出席者：（敬称略）

委員長：榎（東京工科大学）

副委員長：緒形*（物質・材料研究機構）、田中*（東京理科大学）、藤原（EMF 応用計測）

委 員：相川^{代理}米田*（日本水道協会）、荒井（日本製鉄）、池田（神戸製鋼所）、
沖*（建築研究所）、木下（日本規格協会）、熊井（日本検査キューエイ）、
栗原*（日本伸銅協会）、桑原*（東京農工大学）、近藤*（日産自動車）、
塩田*（IHI）、種物谷*（高压ガス保安協会）、鈴木（一）*（日本鋼構造協会）、
辻村*（日本金属継手協会）、中澤（JFEスチール）、中山（日本海事協会）、
蓮井*（日鉄SGワイヤ）、林*（元理化学研究所）、藤井*（日本試験機工業会）、
藤田（北海道大学）、八木*（大同特殊鋼）

（委員長・副委員長・委員計24名、*Web参加）

欠 席：金岡（住友電工ハードメタル）、鈴木（覚）（日本アルミニウム協会）、
千葉（関西学院大学）、富山（土木研究所）、判治（名古屋大学）、山田（東京大学）

オブザーバー：古市（日本検査キューエイ）

幹 事：松本（鉄鋼連盟）

関係者：菊田（経済産業省）（関係者計 1 名）

事務局：越川・井田・齊藤・玉田・田谷・山本（鉄鋼連盟）（事務局計 6 名）

4. 議題及び配布資料

1) 報告事項

資料 1-1：2025 年度 第 1 回鋼材規格三者委員会名簿

資料 1-2：2024 年度 第 2 回鋼材規格三者委員会議事録

資料 1-3：2024 年度事業報告及び 2025 年度事業計画

資料 17：ISO/TC 17 活動報告

2) JIS 規格審議

<改正>

資料 2：JIS A 5523 溶接用熱間圧延鋼矢板

資料 3：JIS G 0321 鋼材の製品分析方法及びその許容変動値

資料 4：JIS G 3128 溶接構造用高降伏点鋼板

資料 5：JIS G 4401 炭素工具鋼鋼材

資料 6：JIS G 4403 高速度工具鋼鋼材

資料 7：JIS G 4404 合金工具鋼鋼材

資料 8：JIS Z 2271 金属材料のクリープ及びクリープ破断試験方法

資料 9 : JIS G 1237 鉄及び鋼－ニオブ定量方法－スルホクロフェノール S 吸光光度法

資料 10 : JIS G 1258-0 鉄及び鋼－ICP 発光分光分析方法－第 0 部：一般事項

< 制定 >

資料 11 : JIS G 0603 鋼管のへん平試験方法

資料 12 : JIS G 0604 鋼管の押し広げ試験方法

資料 13 : JIS G 1222-1 鉄及び鋼－コバルト定量方法－第 1 部：1-ニトロソ-2-ナフトール
沈殿分離四酸化三コバルト重量法

資料 14 : JIS G 1222-2 鉄及び鋼－コバルト定量方法－第 2 部：吸光光度法

資料 15 : JIS G 1222-3 鉄及び鋼－コバルト定量方法－第 3 部：イオン交換分離電位差滴定法

< 廃止 >

資料 16 : JIS G 1222 鉄及び鋼－コバルト定量方法

5. 議事内容及び結果

委員・関係者の紹介、議題・資料の確認及び榎委員長のご挨拶の後、以下の議事が進められた。

- 5.1 幹事から、委員会名簿及び 2024 年度第 2 回鋼材規格三者委員会の議事録が報告された。前回の議事録は、会議後に既に承認されており、特にコメントはなかった。
- 5.2 事務局から、2024 年度事業報告及び 2025 年度事業計画の報告があった。榎委員長から、2025 年 ISO 規格原案審議計画数の減少（対 2024 年実績）、及び電炉関連規格の比率増加について質問があった。事務局から、それぞれ、審議件数は毎年増減があり、規格化活動の停滞ではないこと、及び電炉関連規格の比率が増加している傾向は特に認められていないと回答された。
- 5.3 JIS 規格審議案件の改正 9 件、制定 5 件及び廃止 1 件について、事務局から内容が説明され、主に以下の質疑応答があった。
 - 1) 榎委員長から、資料 8（JIS Z 2271）に関し、“クリープ特性に優れる新材料が多数開発されているが、適用範囲への反映などは不要か。”とのコメントがあった。担当主査から、“現時点では適用範囲への反映は不要だが、今後 ISO における審議をフォローする。”と回答された。また、榎委員長から、“クリープモデルや数式が各種提案されているが、この規格にはそれらが含まれているのか。”とのコメントがあった。担当主査から、“図 1 など基本的なクリープ現象の考え方は記載されているが、全てのモデルや数式を含んでいない。”との説明があった。榎委員長から、“uninterrupted を連続と訳しているが、不連続ではないというニュアンスではないか。”とコメントがあり、担当主査から、“規格ユーザーの利便性を考慮し現行版における訳を継続して用いた。”との回答がされた。また、担当主査から、コメント審議結果を反映して経過報告書を一部修正することが説明された。
 - 2) 榎委員長から、資料 9（JIS G 1237）に関し、“表 2 の 0.25 以上 0.5 以下は、0.25 以上 0.5 未満ではないか。”とのコメントがあった。0.5 %のニオブを定量する場合、表 3 のように抽出法及び直接法のどちらを使用してもよく、はかりとり量がそれぞれ、0.10 g 及び 0.20 g であることが、表 2 の段落に記載されていることが説明され、表 2 は原案のまま承認された。
 - 3) 藤原副委員長から、資料 9 に関し、“資料 5（JIS G 4401）で表中の数字が続く場合、数字の後に「，」はつけない様式に順次変更しているとの説明があったが、表 4 の様式変更は不要か。”とのコメントがあった。担当主査から、分析 JIS では「，」つきの様式で統一していること、及び当該 2 列の左右の数字位置を合わせるべく、今後の表形式見直しを検討中で

あることが説明され、表 4 は原案のまま承認された。

4) 榎委員長から、資料 11 (**JIS G 0603**) のコメント No.4001 に関し、“欠点”に対応する英語について確認があった。担当主査から、対応国際規格は“defect (欠陥)”となっているが、不合格を意味する用語であるため、JIS では、“欠点 (imperfection)”に変更したことが説明された。榎委員長からは“欠点”の用語変更の検討要望があった。担当主査から、鋼管以外の鋼材 JIS や非破壊試験規格でも広く使用している用語であり、変更影響が大きいことが説明されたが、鉄鋼連盟にて今後検討は行うこととした。

5) 熊井委員から、資料 14 (**JIS G 1222-2**) のコメント No.4001 に関し、保存容器を 500 mL に限定しないような記載がよい、とのコメントがあった。担当主査から、分析 JIS の共通表現として、原案は、500 mL に限定する表現（この場合、“500 mL の保存容器”）とは、なっていないことが説明された。

上記の他、改正・制定 JIS 案は、規格ごとのコメントテンプレートに記載されたとおり、修正することとし、改正 9 件、制定 5 件及び廃止 1 件は、いずれも承認された。

5.4 事務局から、ISO/TC 17 (鋼) の活動状況について、報告された。榎委員長から、中国が提案した鉄鋼分野のスマート製造に関するガイドラインについて、中国での実施状況について質問があった。事務局から、中国での実施状況は不明だが、積極的に推進しようとしていること、及び当初中国は、認証基準を含めた規格制定を提案したが、ISO/TC 17 で時期尚早との意見が出され、ガイドライン規格の制定を行っていることが説明された。

5.5 幹事から、2025 年度第 2 回鋼材規格三者委員会は、2025 年 12 月 17 日 (水) 午後に、ハイブリッド会議として開催することが報告された。

5.6 幹事から、熊井委員の退任予定（後任：古市様）が紹介され、熊井委員からご挨拶があった。

5.7 藤田委員から、ISO 規格作成用ツールの OSD (Online Standards Development) システムに関し、鉄鋼連盟での使用状況の確認があり、事務局より回答があった。

以上